

今回のテーマは、「冷房（空調）の歴史」

1．冷房と空調

1) 冷房

「屋内を涼しくすること。 暖房。」（『大辞林』より）

「室内を冷却すること 暖房。」（『広辞苑』より）

2) 空調 = 「空気調和」（Air Conditioning）

「対象とする空間の空気の温度 湿度 清浄度 気流分布を，その空間内で要求される値に合うように，同時に処理するプロセス。」（空気調和・衛生工学会の定義）

「空気調和とは，空気中の水分を増すか減らすかによって，空気の湿度を制御することである。次に，空気の加熱または冷却による温度の制御，洗浄または濾過による空気の浄化ならびに，空気の動きと換気の制御をいう。」（『空気調和の父 ウィリス・ハヴィランド・キャリヤ』より）

2．涼しくする方法いろいろ

・古代エジプト

紀元前25世紀のフレスコ画には，素焼きの壺に水を入れて，これを奴隷が大きなうちわで扇いでいる絵が残されている。

壺表面から浸出する水の蒸発により壺内の水を冷却する方法。

・紀元前のインド

蒸発冷却の方法がもっと大規模に行われており，地面に作った多くの浅いくぼみに水を満たし，晴天の夜に大気放射で水を冷却し，ある場合は水の表面に氷の層ができた。

・古代ギリシャの哲学者アリストテレス（紀元前384～322年）

水を沸騰させて、その水を陶器に入れ、夕方に家の屋根の上に置いて夜の冷気にさらす。そして、翌朝これを陶器ごと穴に収めて、その周りを水で濡らしながら新鮮な草花で包んでおくという方法で、一日中冷たい水を保存していた。

素焼きの壺は多孔質。中の水がじわじわとしみ出して、その水分が少しずつ蒸発する。このとき水は気化熱を周りから奪うから冷える。

・紀元33年 ローマのポンペイウス劇場

客席に水路を作って香水の入った水を流した。

・ローマ皇帝のバリウス・アピタス（在位218～222年）

夏に邸宅の庭に雪の山を築き、これを吹き抜ける冷風により冷房を行った。

・バグダットのカリフ・マハディ

家の壁を二重にし、その間に遠い山からラクダに運ばせてきた雪を詰めて冷房した。

・8世紀のバグダットの住宅

屋根裏に大きな氷塊を置き、これを奴隷にうちわであおがせ、天井にあけた穴から冷気を下の部屋に吹き下ろした。

・1550年 ローマ『冷却法』出版（ブラシウス・ピラフランカ）

冷やしたい水を素焼きの壺に入れておき、その周りを塩や硝石（硝酸カリウム）を溶かした水で冷やした。

・16世紀 北イタリア

洞窟の冷気を建物に導いて冷房した。

- ・1834年イギリス在住のアメリカ人のジェイコブ・パーキンスが機械圧縮式冷凍機を発明
エチルエーテルを使って、圧縮・膨張を繰り返すことによって、冷却作用を生み出す。
ただし、コンプレッサーは手回しであった。

2．冷房の始まりと空調への発展

アメリカにおける温風暖房技術は、19世紀末にほとんど完成に近い状態に達していた。温風暖房は冬のためのものであるが、夏にこのダクトを使って室温より低い温度の空気を送風すれば室が冷却、すなわち冷房されることは誰にも考えつくことである。19世紀のなかばからこの冷房に関する種々の試みがなされた。

1) 井水冷房

イギリスの下院議事堂の暖房設計者のリード（D．B．Reid）は、蒸気コイルの中に井水を通して冷房を行うことを提案した。実施案は後述の氷冷房にかわった。

1880年にはニューヨークのレノックス劇場で、井水を暖房コイルに通して館内を冷房した。これが世界における井水冷房の第1号である。この劇場のファンや空調機はスターテバント社、蒸気コイルに至る蒸気弁を制御する電気式サーモはジョンソン社のものが用いられた。

その後、井水冷房は紡績工場を中心に用いられたもようで、1930年頃までは盛んに用いられていた。

2) 氷による冷房

1880年にマディソンスクエアガーデンの温風暖房装置の中に氷ブロックを置き、一晩に4トンの氷を使って冷房した。1881年にワシントンのホワイトハウスの大統領が夏に病気になったため、病室の送風ダクト内に氷のブロックを入れて冷風を送風し冷房した。

イギリスの下院は蒸気によるカロリファイアで重力循環式の換気を行う方式で、1893年に通風路（ダクト）の途中に木柵を設け、盛夏にはここに氷柱を並べて通過空気を冷却した。

1890年にニューヨーク音楽堂（カーネギーホール）では、外気取入口に柵を設け、ここに氷ブロックを並べて冷房した（設計者：A. ウォルフ）。

その後、ブロードウェー劇場（1892年）、スタラントン高校（1901年）などにも水冷房が用いられたが、以上の方式はすべて氷ブロックを空気通路に置く方式であった。その後1907年以降、エアワッシャーが用いられるようになると、氷ブロックをこの内部に入れ、冷水をつくる方法が用いられ、さらに大規模設備では氷ブロックだけ置く室を設け、ここに水をスプレーしてつくった冷水を別の所にあるエアワッシャーにスプレーした。日本の国会議事堂の竣工当時（1936年）の方式はこの方式である。

氷冷房の方法は冷凍機による完全冷房と同様の効果が得られたが、氷のコストが高く、またその搬入の手間が膨大で、ほとんどのものが冷凍機による冷房に代わった。

3) 冷凍機による冷房（完全冷房）

冷凍機を用いる冷房方式はイニシャルコストはやや高いが、ランニングコストの点、保守管理の点で氷冷房よりすぐれており、その結果も良好で1910年以降、この方式が定着した。

第1号はイギリスのリンデ社により設計施工されたインド王宮の例で、1887年（もしくは1890年）に施工された。第2号は1893年に（もしくは1892年）に竣工したフランクフルトの住宅で、アンモニア往復冷凍機を用い、小屋裏の断熱箱内に入れた冷却コイルで空気を冷却した。この冷風は重力式で天井の多数の小孔から室内に流下し、冷房した。この方式はファンがなく全外気方式であった。

これ以降の冷房の発達はアメリカに移り、この発達の立役者としてA. ウォルフ（1859～1909年）が活躍する。彼は前述のカーネギーホールの氷冷房（1890年）をはじめとし、カーネル医科大学の解剖室（1899年）、ニューヨークの株式取引所（1902年）、ハノーバー・ナショナル銀行（1902

年），メトロポリタン美術館の収蔵庫（1907年）などの完全冷房を設計施工した。

ウォルフに次ぐ技術者はS. クレーマー（Stuart W. Cramer, 1868～1950年）であり，紡績工場の湿度の制御に大きく貢献した。1906年アメリカ木綿紡績総会で“Air Conditioning”（空気調和）なる言葉を初めて発表したので，クレーマーは「空気調和」の命名者といえることができる。

4）空気調和

キャリア（Willis Havilland Carrier, 1876～1950年）は，カーネル大学電気工学科を卒業後，1901年にバッファロー・フォージ社に入社した。同社は，当時のアメリカの3大ファンメーカーの一つである。1902年の春ニューヨークのサケット・ウイヘルムズ印刷工場の湿度の調整の設計がキャリアの所に持ち込まれた。当時の印刷工場は多色印刷を始めており，室の湿度の変化で紙の伸びちぢみがあり，印刷がうまくゆかなかった。このため室内の相対湿度を一定にすることが要求されたのである。キャリアは，以後，空調技術の発展に大いに貢献した。

3．日本の冷房・空調の歴史

1）氷室

・氷室：氷を保管するための貯蔵室

『日本書紀』仁徳天皇紀62年 斗鶏野（つげの，現在の奈良県山辺郡）に氷室あり

「土を一丈余り掘り，厚く茅萩を敷き，その上に氷を置き，草をもって覆ったもの」

・延喜式では，山城国に六ヶ所，大和国，河内国，近江国，丹波国にそれぞれ一ヶ所の氷室を設置

・平城氷室神社：献氷祭 1200年以上も続く儀式（祭神：鬮鷄稻置大山主命（つげいなぎおおやまぬしのみこと）

2) 江戸時代

安永2（1773）年 加賀藩の前田侯が諸大名を招いたとき、雪や氷を使って客殿を”冷装”したが、わが国の冷房の始まりとされている。

3) 戦前

日本の産業の主力は紡績業であった。紡績工場では、特に湿度の制御（高湿度方向への制御）が非常に重要であったため、空調産業の発展に大きく寄与した。

蒸発冷却

1907（明治40）年 富士紡績の保土ヶ谷工場（小山工場との説もあり）に施工（日本の空調第一号）
バッファロー・フォージ社から輸入された蒸発冷却型のアワツシャを備える。

1918（大正7）年 日本人の設計施工により相模紡績平塚工場などに蒸発冷却式空調が施工
夏季の工場内温度が35 以上に上がり、ほとんど用いられなかった。

井水冷房

1922（大正11）年 東京モスリン名古屋工場に井水冷房を施工
夏季の室温を30 以下にすることに成功

昭和4年の高性能精紡機導入以降、紡績工場では井水冷房が常識的になる。

1923（大正12）年 日本興業銀行本店に一般用としては初の井水冷房
銀行や映画館で用いられるようになるが、銀行ではカビがはえる問題あり。

完全冷房（冷凍機を用いる冷房）

1921（大正10）年 農務省中野養業試験所に日本初の完全冷房を施工（柳町政之助の設計、ビルタ社製アンモニア冷凍機）

- 1922（大正11）年 帝国人絹広島工場に完全冷房を導入
- 1923（大正13）年 小田良治邸に一般用としては初の完全冷房
- 1927（昭和2）年 三越演芸場に劇場空調第一号
- 1930（昭和5）年 柳町政之助により国産ターボ冷凍機が作られ、これ以後普及した。（製造は、荏原製作所，日立製作所）
- 1937（昭和12）年 三井鉱山四山抗に初の坑内冷房

冷房新設延面積は直接暖房新設延面積の10分の1の面積のみ 高級ビルのみ
昭和12，13年頃がピーク（昭和13年 鉄鋼統制令，昭和16年 金属回収令）

アドソール冷房

大正末期 理化学研究所が開発した酸性白土を主体とする吸着脱湿材を使用する方法
冷房用の効果が不十分であったうえ，再生時に粉化して，吹き出し口からゴミとなつてで
てくることもあり，戦後には，完全に姿を消した。

ヒートポンプ

- 1926（大正15）年 京都帝国大学教授・大塚要がヒートポンプの理論に関する日本初の論文を発表
- 1932（昭和7）年 兵庫県の村山邸に日本初のヒートポンプによる冷暖房装置が施工
- 1937（昭和12）年 当時世界最大級のヒートポンプ設備が，宇治電ビルと京都電灯ビルに施工

4）戦後

- 1951（昭和26）年 パッケージエアコン，ルームクーラーの生産開始
個別式空調方式の普及（1985（昭和60）年には，全体の80%が個別式空調）
- 1951（昭和26）年 第1次ビルラッシュ 全館空調

1960（昭和35）年以降 空調床面積の急増，特に，セントラル空調＜個別式空調

空調の設計技術および生産技術は，欧米レベルに達した

昭和40年代 蓄熱槽の利用が普及する

1970（昭和45）年 日本初の地域冷暖房 大阪万国博覧会と千里ニュータウン中央地区

1973（昭和48）年 オイルショック

省エネ技術の進歩

二重ダクト 可変風量

電算機による制御

これ以降，超高層ビルや大空間の空調がはじまる

4．参考文献（〔 〕内は，熊本県立大学所蔵情報）

- ・『快適な温熱環境のメカニズム：豊かな生活空間をめざして』（空気調和・衛生工学会編，丸善，1997年12月，¥4,725，ISBN：4-87418-019-1）〔開架2，528.211Ku 28，0000225353，0000225354〕
- ・『空気調和・衛生設備技術史』（空気調和・衛生工学会編，丸善，1991年4月，¥10,000，ISBN：なし）〔所蔵なし〕
- ・『冷凍空調史』（井上宇市，日本冷凍空調設備工業連合会，1993年4月，¥9,500，ISBN：なし）〔所蔵なし〕
- ・『空気調和の父 ウィリス・ハヴィランド・キャリヤ』（マーガレット・インゲルス著，東洋キャリア工業株式会社訳，東洋キャリア工業株式会社，1957年8月，非売品，ISBN：なし）〔所蔵なし〕
- ・『冷熱文化史』（『冷房空調設備』昭和61年11月号付録，日本冷凍空調設備工業連合会，1986年11月，¥2,000，ISBN：なし）〔所蔵なし〕

5．参考URL

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/m-tsuji/kougi.html/jyuu.html/jyuukan.html>